

## 復活節第5主日

福音朗読 ヨハネ 14・1-12

2023.5.7 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

わたしたちはこの地上の生活を終えたのちに、いわゆる天国、神様のもとに憩う、受け入れていただく、そのように信じておりますけれども、皆さんは天国という状態について、どのようなイメージを持っていらっしゃるでしょうか。

ある娘さんがお父さんにこういうようなことを言ったっていう、ちょっと笑い話のようではありますが、そのお嬢さんはお父さんに対して、「お父さん、天国でわたしを見かけても声をかけないでね」っていうようなことを言った。天国はたくさんの方がいるけれども、お互い同士は関係なくても憩うことができる。まあこれは半分冗談だとは思いますが、そういうイメージ。「わたしの父の家には住む所がたくさんある」(ヨハネ 14・2) っていうのが、ある意味では、大きなマンションのようにたくさんの方が住んでいるけれどもお互い同士の繋がりはない、あるいは場合によっては互いに「邪魔だなあ」と思い合うとか、軽蔑し合うとか、そういうような状態ではない、ということは考えてみれば明らかです。

「父の家」というのは住むところがたくさんあり、そしてそこに住んでいるたくさんの方たちが互いに愛において繋がっているっていう状態を、わたしたちは福音の、あるいはイエス様の生き方やことば、いろんなことからイメージしていると良いのではないかと思います。

しかし、天の国、あるいは父の家というのは、単にわたしたちが死んだあとに迎え入れられる、わたしたちとは離れた場所に備えられている所というだけに捉えられていたら、それはヨハネによる福音の言いたいことを十分理解しているとは言えません。ヨハネによる福音は、今日読まれた福音のすぐあとで、このようなイエス様のことばを伝えています。イエス様はこのようにおっしゃいます。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛し、父とわたしはその人のもとに行き、共に住む」(ヨハネ 14・23)。父とイエス様、御父と御子がイエスを愛しそのことばを守る人の所に共に住むとおっしゃっている。つまり、そこが父の家になるということです。ですから、父の家とは、ど

こか離れた場所に備えられている、そういう神様の家というだけではなく、信じる者の心、そしてその心が作り出す人と人との関係だと言って良いと思います。

しかし、現実には、わたしたちは多くのことで一番人間関係に頭を悩まし、また傷ついている。そういう現実があります。それは、ひとつには、わたしたちの心が完全に住むところがたくさんある父の家になっていない。だからだと、一言で言えば言うことができます。なぜか。それは完全に神様、救い主をお迎えしていないので、そのときに意識するとしないとにかかわらず、わたしたちが周り状況や周りの人に救い主の役割を期待してしまう、そういうことがあるからです。他の人の言動に自分の人生を預けてしまう。そんな気持ちから、「あの人にこんなことをされた」、「あの人がこんなことを言った」あるいは「このようにしてくれない」。いろんな苦しみが他の人から湧いてくる。それというのは、他の人に救い主の役割を期待してしまう、不当に大きな役割を他の人に与えようとする、しかし、他の人は、人間同士はその役割を担うことはできないので、そこから苦しみが生じ、わたしたちの心には他の人のための正当な場所が備えられない、ということになってしまいます。

救い主イエス様をお迎えする、イエス様に一人ひとりの人生をお任せする、そしてそのことばに従うときに、本来のふさわしいそれぞれの場所、他の人の正当な場所をわたしたちの心に用意することができると言って良いと思います。というのは、他の人というのは救い主としてわたしたちの人生を成り立たせてくれることを期待する相手ではなくて、イエスと共にイエスに助けられて愛する対象として出会っていくべき存在だからです。周りの人、あるいは日々の生活の中で出会う人々に対して、イエスのみことばに従う、つまりイエスと共に愛する。そのためには、わたしたちの心の真ん中に本当の意味での救い主、神様をお迎えして、一人ひとりの人生をそのかたの導きに任せる必要があります、そこから他の人との関係が整えられていく、とすることができるのではないかなあとと思います。

わたしたちはそれぞれ今自分の心を振り返ってみて、住む所がたくさんある父の家と呼べるだろうか。それとも、そこには結局自分一人が入るだけで精一杯、そういうものになっていないだろうか、そして自分一人の精一杯の家の中に充滿しているのは周りのものに対する不満という状態。もしそうであったなら、改めてイエス様をお迎えする、その思いを新たにして、恵みのうちに他の人との繋がりをもう一回、神様の愛の秩序の中で捉え直す、その振り返りの時を持ちたいなあとと思います。

今日、わたしたちはごミサを通して、一人ひとりの中にイエス様を、そして父である神様をお迎えして、一人ひとりを父の家にしていただく、その恵みを願います。ごミサを通して表わされるその希望が一人ひとりの中に実現していきますように。そして、またその希望を持って集まっているこの教会の集まりが、住む所がたくさんある父の家を表わすものでありますように。神様の、イエス様の導きを願いながら、このごミサの恵みをいただきたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>